

神話スライド s e t シリーズ

月にがみついた犬

スライド枚数 : 24枚
時間 : 6分55秒
イラスト : 三善 和彦
ナレーション : 山崎和可菜

LIBRA CORPORATION



+音始まり



1. ある日、アイナという男が、山の中を歩いていた
ときのこと。
大きな蛇に出くわしました。
びっくりしたアイナですが、蛇は、人間など知ら
ん顔。
草の上を行ったり来たりしています。



2. 不思議に思ったアイナが、そうっと近づいてみる
と、その蛇は、けがをしたところを、必死に草に
こすりつけていたのです。
すると、見る見るうちに傷口がふさがり、けがが
治っていきます。
「これ、もしかして霊芝草（れいしそう）じゃな
いか？」



3. アイナは、どんな病気もけがも治してしまうとい
う霊芝草の噂を思い出しました。

そして、その草を摘んで持ち帰ることにしたので
す。

+音変わり



4. アイナはまず、山道でしとめた大鹿を、この草でこすってみました。
すると、どうでしょう？

鹿はたちまち生き返り、山の中へかけていきます。

3



5. 次に、道ばたで死んでいたカラスをこすってみました。
すぐにカラスは、羽ばたいて、大きな鳴き声を残し、飛び立ちました。

「すごい！これは、本物だ」

3



6. アイナが村に帰ってみると、大騒ぎの最中でした。
村長（むらおさ）の娘が亡くなったというのです。



7. アイナは、早速、村長に、いいました。
「私は、よい薬を持っています。
娘さんを生き返らせてあげましょう」

わらにもすがる気持ちの村長は、
「もし、ほんとに娘が生き返るなら、おまえに娘をやるう」と約束します。

そこで、アイナが靈芝草で、娘の顔をなでると…。

(p)



8. 娘は、ぱっちりと目をあいて、すっかり、息を吹き返したのです。

3



9. 悲しみのお葬式は、あっというまにお祝いの結婚式になって、アイナと娘は、仲のよい夫婦となりました。

そして、それから、アイナは、霊芝草の不思議な力で、村の人たちを助けて歩いたのです。

+音変わり



10. ある日のこと、アイナは、遠くの村へ出かけることになりました。

アイナの気掛かりは、大事な霊芝草のこと。

「いいか、決して人に見せるんじゃないぞ」

そう、きつく妻に言い渡して、出かけていきました。



11. ところがその後、不思議な草の噂を聞きつけた妻の姉が訪ねてきたのです。

妻は、せがむ姉を断り切れず、霊芝草を渡しました。

しげしげと見つめていた姉ですが、一度手に取ったら、もう、ほしくてたまりません。

そんな様子に心配になった妻が、「返してよ」と手を伸ばした時・・・



12. 姉が、ひよい、と後ろに隠してしまったのです。
そして、素知らぬ顔で
「おや、薬がないよ、おまえが隠したんでしょう？」

と、一言。
「姉さんこそ、どこへやったのよ！」
二人でたちまち大喧嘩です。

+音始まり

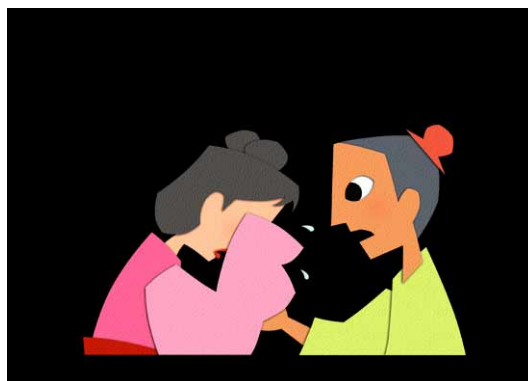


13. 夜になりました。
空に月が顔を出しても、あきれたことに、二人の
けんかはまだ終わりません。
もう、靈芝草もそっちのけで、けんかに夢中。
その様子を空から見ていた月。
こっそり降りてきて、靈芝草を盗み、さっさと、
空へ戻ってしまったのです。

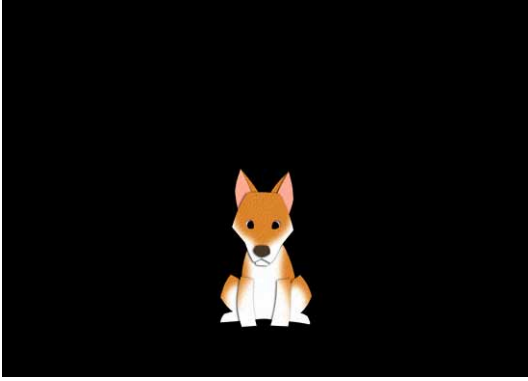


14. さあ、あわてたのは、けんかをしていた二人。
月に盗まれたとあつては、簡単には取り戻せませ
ん。
姉はとっとと逃げ帰り、妻は、一人、途方に暮れ
ることとなりました。

+音変わり



15. 帰ってきたアイナは、
「靈芝草」が月に盗まれたと知って、言いました。
「それは、大変だ、何とか取り戻さなくっちゃ」
でも、月は、とんでもなく遠いのです。とても、
かわいい妻をおいて、いけるものではありません。

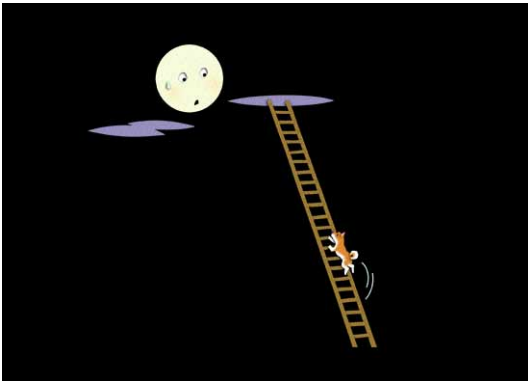


16. 「そうだ、うちの山犬を・・・」

アイナの家には、かしくくて主人思いの山犬が、
いました。

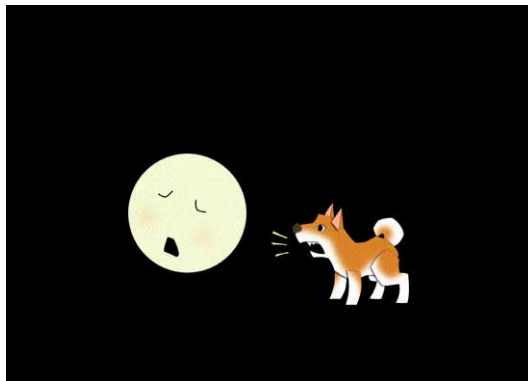
アイナは、自分の代わりに、この犬を、いかせる
ことにしたのです。

+音変わり



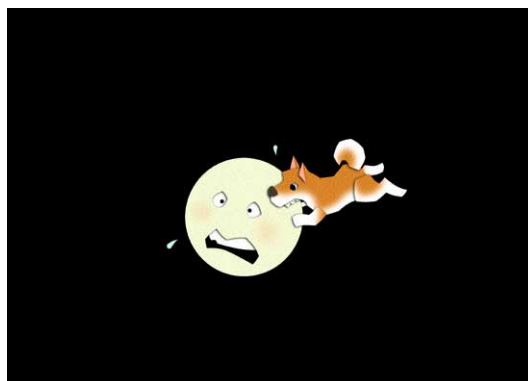
17. アイナは、空に長い長いはしごをかけました。

山犬はせっせとはしごをのぼりつづけ、七日七夜
で、空にたどりつきました。



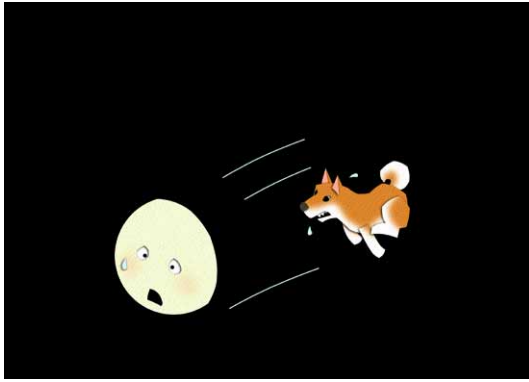
18. そして、ようやく月を探し出すと、草を返せ、
つめよったのです。

ところが、月は、そんなもの知らないね、と涼し
い顔。



19. 腹を立てた犬は、月に飛びかかるとガブリとひ
とかみ。

月をかじりとってしまいました。

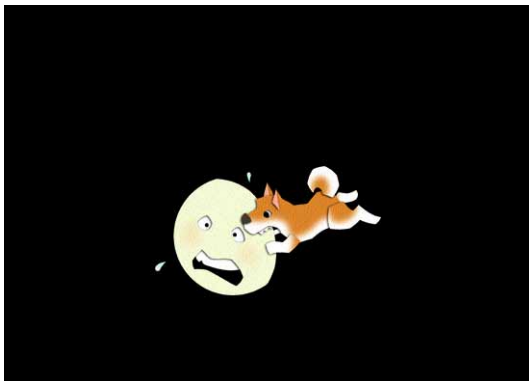


20. 「あいたた・・・」

たまらず月は、逃げていきます。

当然、犬は追いかけます。

3



21. 追いついた犬は、またガブリ。

この繰り返しで、月はだんだん細くなっていきます。

3



22. けれども、さすがの犬もながーいおいかけっこに疲れ果てて、一休み。

すると、月は、これ幸いと、隠しておいた霊芝草を取り出して、かまれたところをこすります。とたんに月は、もとのまん丸に元通り。また、おいかけっこの始まりです。いつまでもいつまでも、繰り返し繰り返し・・・。

+音変わり



23. 犬は、今でも天にいて、月をかじり続けています。

月も飽きずに、霊芝草で傷をこすっては、かじられあとを治しています。犬がかじれば月が欠け、草でこすれば、丸くなる。

こういうわけで、月は満ち欠けを繰り返しているのです。